

松禪寺報

石室山 松禪寺

住職 高橋 乾峰

〒 668-0363

兵庫県豊岡市但東町栗尾 469

電話 0796-55-0034

FAX 0796-55-0066

Mail kenpou@syozen.com

第 120 号

<https://syozen.com>

<https://www.facebook.com/syozenji>

発行日 令和 8 年 9 月 25 日

ぼた餅・おはぎに込められた祈り

お彼岸に仏さまにお供えるものに、「ぼた餅」や「おはぎ」があります。春は牡丹の花が咲く頃なので「ぼた餅」、秋は萩の花が咲く頃なので「おはぎ」と呼ぶようになったといわれています。

では、どうして「ぼた餅」や「おはぎ」をつくり、仏さまにお供えるようになったのでしょうか。

昔は、白米といえば最高のご馳走でした。その白米に、これも大切な餅米を混ぜて炊き上げ、貴重な小豆と、当時は特に貴重であった砂糖を使ってつくった餡で包んだ「ぼた餅」や「おはぎ」。これこそ、昔の人たちにとって特別なご馳走だったのです。

「昔の人って、いつ頃のこと？」と思われるかもしれません。和尚が小さな子どもだった頃も、「ぼた餅」や「おはぎ」は、やはり特別なご馳走でした。

そのような最高のご馳走を、心



を込めて仏さまにお供えし、家族そろって手を合わせる。そして、その後にみんなでいただく——。そこには、昔の人たちのつつましく、温かな祈りの心が込められていたのではないのでしょうか。

さらに大切なのは、そのご馳走を自分たちだけでいただくのではなく、隣近所の人たちにも分けて、みんなに食べてもらったことです。

他者に施す無償の行為を、仏教では「布施」といい、大切な修行の一つとしています。昔の人たちは、「ぼた餅」や「おはぎ」をつ

くり、周りの人たちに分け与えることによって、「布施」という仏教の大切な教えを、ごく自然に、身をもって実践していたのです。

難しい仏教の教えを知らなくても、「おいしいものをつくったから、みんなでいただきますしよう」と分け合う。その素朴な行いの中に、仏さまの教えが息づいていたのかもしれない。

昔の人たちが大切にしてきた、お彼岸のこうした習慣。その一つひとつを振り返ってみると、先祖を敬い、家族を思い、そして周りの人々と喜びを分かち合う心が見えてきます。

しかし、そんな難しい理屈はともかくとして——。

「ぼた餅」や「おはぎ」は、今年でもやっぱりおいしいですね。

今年のお彼岸には、仏さまに手を合わせ、家族やご近所の方々と一緒に、昔から受け継がれてきたこの味をいただきながら、先人たちの温かな心にも思いを寄せてみてはいかがでしょうか。

施餓鬼会：先祖を想い、いのちをつなぐ

初盆だけではない大切な先祖供養の法要

今年も一層厳しい猛暑が連日続いた夏、8月7日（金曜日）午前10時より、施餓鬼会を執り行いました。

法要には、瑞泉寺住職・副住職様（和田山町）、楊岐院住職・副住職様（豊岡市）、東源寺様（夜久野町）の和尚様方5名にご出頭いただき、住職と兄（徒弟）を合わせ、7名で厳修いたしました。

今年は4霊位の初盆施餓鬼のほか、檀信徒各家の先祖供養、そして栗尾養鶏組合の鶏魂供養を、例年どおり行いました。

今年は本堂にエアコンが設置されたため、昨年までのような厳しい暑さは幾分和らいだことと思います。それでも熱中症予防のため、今年も参拝者の皆様全員にペットボトルのお茶をお配りしました。



▲施餓鬼会＝8月7日 撮影：渡辺富夫氏

これまで、コロナ禍や大荒れの天候など、法要を行う上でさまざまな困難がありました。しかし、施餓鬼会は、初盆を迎えられたご先祖様だけでなく、檀信徒各家のご先祖様、さらには有縁無縁の諸精霊とともに供養する大切な法要です。

「今年は初盆ではないから関係ない」と思われる方もあるかもしれませんが、施餓鬼会は、私たちのいのちにつながるご先祖様に感謝し、先に逝かれた方々を供養する大切な機会です。どうぞ初盆の有無にかかわらず、来年は一人でも多くの皆様にお参りいただきますよう、お願いいたします。

送り火

坂村真民

お父さん
お母さん
ことしのお盆は
よいお盆でした
お墓まいりはできませんでしたが
善通寺高野山とおまいりして
御冥福を祈ってきました
子供たちも大きくなりました
梨恵子も来年はどこかの大学に入り
大学生となりました
一年一年と大きくなってゆくのを楽しみに
来年も飛んでお出てください
茜ちゃんも
父さん母さんのあけくれをよく見て
わたしたちを守ってください
これといって特別の御馳走も
できませんでしたが
心から送り火を
みんなでたきます
では来年まで
さようなら
さようなら



第2回境内掃除

猛暑のなかのご奉仕に感謝

お盆も間近に迫った7月26日（日）、今年2回目となる境内掃除を行いました。連日の猛暑が続く中、午前8時から10時までの2時間、草刈りや本堂のガラス窓拭きなどの作業に精を出して頂きました。

今回協力してくださったのは、総代（責任役員）さん5人をはじめ、上山根、下山根、



貝田、平田、中路、榎谷の各評議員さん6名と有志4名、総勢15名の皆さんでした。お陰様で8月7日の施餓鬼会には、参拝者皆さんを気持ち良くお迎えすることができました。有り難うございました。

境内掃除を終えてからは、総代さん方で施餓鬼会の準備をお手伝いいただき、施餓鬼棚を組み立てていただきました。



迎え火や父の佛母の顔

おもかげ

白雄

※加舎白雄（1738～1791）。江戸中期の

詩人。信州上田の人。名は吉春。

盆の8月13日と16日、松禪寺境内の灯籠や供養塔のほか、松禪寺霊園でローソクを灯しています。雨降りで灯せない年もありました



が、今年は雨もなく点灯することができました。暦の上では秋、爽やかな風がそよぐなか…と言いたいところですが、暑さ厳しいお盆でした。

亡くなった親や先祖を思う心を大切にするお盆です。皆さまのお家でもさまざまなお盆を過ごされたかと思えます。家族そろってお墓に参り、久しぶりに賑やかな食卓を囲んで、いろいろな話に花が咲いたことでしょう。生前の感謝や安らかな成仏を祈る、その気持ちを大切にしたいものです。

ご長寿おめでとうございます

百寿・米寿のお祝いを伝達

妙心寺派花園会本部への申請により、百寿 1 名、米寿を迎えられる 2 名の皆さんに、妙心寺派管長・山川宗玄老大師より寿詞と輪袈裟をいただきました。併せて松禪寺花園会から、寿詞を入れる額縁をそれぞれ贈呈させていただきます。誠にありがとうございます。

お家に長寿の方々が居られるのは家庭和楽のもとであり、一家繁栄の瑞兆とお祝い申し上げる次第です。ますますのご長寿を保たれるようお願いいたします。

◎百寿

栗 尾 中島トシノ様（大正 15 年生まれ）

◎米寿

栗 尾 森岡 明美様（昭和 14 年生まれ）

和泉市 西本 睦子様（昭和 14 年生まれ）

※お願い

お寺では檀信徒皆さま全員の生年月日を把握していません。今年米寿 88 歳を迎えられる同居家族が居られましたら、ぜひ住職までお知らせ下さい。数え年でお祝いをしています。が、年齢が過ぎていても構いませんので、ぜひご一報ください。お祝いの品を妙心寺派花園会本部へ申請いたします。

達磨忌と開山忌のご案内

来る 11 月 3 日、松禪寺では左記のとおり達磨忌と開山忌を営みます。達磨大師は、禪宗の開祖です。松禪寺は来翁祖諱和尚大禪師を開基として、禪師の師である一笑禪慶和尚大禪師を勧請開山としています。ぜひお参りください。

とき 11 月 3 日（火／文化の日）

午前 8 時 30 分より当番の調理開始

午前 11 時より法要

正午より齋座

場所 松禪寺本堂

護持会

会費（後期）の

納入をお願いします

9 月は松禪寺護持会費の通常会費（後期分）をお願いする月です。松禪寺花園会は檀信徒の皆様方の、護持と発展を願う護持会費で運営しています。各評議員さんより納入の依頼がありますので、何卒ご協力の程よろしくお願ひします。遠方の皆様には郵便局の払込取扱票をお送りいたします。

なお、賛助会員の方々は本年 2 月に納入依頼済みですので、後期分の請求はございませんが、未納の方は納入の程よろしくお願ひいたします。

おりおりのくらし
雨奇晴好

【俳句】

粉殻の焼くる匂ひよ星月夜

肝冷やす暗夜行路に鹿啼きて

秋霖や山に山鳩啼く朝

句集『五月晴』著者・水縄松生

肌にふるる目にふるるもの今朝の秋
溝蕎麦をくぐりて細き流れかな
盃に浮かして飲むや月見宴

先住・高橋英州

【川柳】

スイスイと泳ぐすべなど世にはない

苦楽越え喜寿と傘寿の春そこに

中島英三 三木市

撮る人とカメラのせいにする写真

自転車をもう止めたらと子に言われ

句作にもスマホ大いに役に立ち

太田弘美 つくば市

※俳句、短歌、川柳などをぜひお寄せください。